

ジュニア賞

権利の気球

小林 祐輝（高校2年生：鳥取県）

このゲームは道徳教育の場で用いられる権利の熱気球をオマージュしてテキストアドベンチャーゲーム形式でより楽しく学べるようにしたものです。

ゲームのストーリー：

プレイヤーは15の荷物を乗せて気球に乗っていました

ところが、だんだんと高度が下がっていきます
自分の乗っている気球に穴が空いていることに気がついたプレイヤーは、助かるために自分の大切な荷物を捨てることを選択します
この荷物こそが「人権」でした

ゲームの流れ：

熱気球の上で荷物である人権を

高度ゲージが下がり切るまでに何を捨てるのかを選択します。

何も選ばないこともできますがその場合は落ちてゲームオーバーとなります

それぞれの権利について簡単な説明を見ながら3つ捨てる権利を決めます

捨てる権利がきまるとその選択によってその人の生活がどう変わるのかをアドベンチャー形式で見ることができます

表現の自由、プライバシー権、平等権

の組み合わせだとsns監視社会になる

生存権、教育を受ける権利、身体の自由

の組み合わせで人よりもお金の価値が高いディストピアになる

というように、

組み合わせでアドベンチャーパートの内容が変化します

これを1ステージとして合計で4ステージ行い、最後に残った荷物の3つの内容によってエンディングが変わります。

このゲームのポイントは2つで

1つは

人権がなくてはならないものだとゲームをどうして実感できる点で

道徳の授業で使われるワークシートとは異なり、捨てた権利の組み合わせによって「SNS監視社会」や「ディストピア」といった具体的な結末をアドベンチャー形式で描写することで、その権利達が自分に形をもたらせてくれているか、理解できることで

2つ目は

自分にとって譲れないものを知ることができることです。

4ステージを経て最終的に手元に残った3つの権利が、プレイヤーが最も譲れないと考えるもので、単なる学習に留まらず、自己分析的な面白さがあると言えます